

News Release

2024年2月28日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2024 年 2 月 23 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF の財務力が支えとなり、2023 事業年度も 1 株当たり 3.40 ユーロの安定した配当を提案

- 特別項目控除前 EBITDA は 77 億ユーロ(前年比 28.7%減)
- 営業活動によるキャッシュフローは 81 億ユーロ(同 5.2%増)、フリー・キャッシュフローは 27 億ユーロ(同 18.5%減)

2024 年の見通し:

- 特別項目控除前 EBITDA は 80 億~86 億ユーロを見込む
- 一時的な資本的支出 の増加により、フリー・キャッシュフローは 1 億~6 億ユーロとなる見通し
- ルートヴィッヒスハーフェン拠点において、新たに 2026 年末までに年間 10 億ユーロのコスト削減を目指す

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)はこのほど、2023 年の業績を発表しました。経済的な不確実性に満ちた市場環境の中、BASF グループの 2023 年度の売上高は、前年度の 873 億ユーロに対し、689 億ユーロでした。この売上高の減少は主に、価格の大幅な下落と販売量の大幅な減少によるものです。とりわけ原材料価格の下落により、ほぼすべての事業セグメントで価格が低下しました。販売量は、多くの顧客産業からの需要が低迷した結果、すべての事業セグメントで減少しました。しかしながら、営業活動によるキャッシュフローは前年比 5.2%増の 81 億ユーロに達し、BASF の財務力が示されました。BASF はすでに 2023 年通期の速報値を 2024 年 1 月 19 日に発表し

ています。今回、BASF 取締役会会長 Dr. マーティン・ブルーダーミュラーは最高財務責任者(CFO)の Dr. ディルク・エルバーマンとともに、2023 年度の事業推移の詳細を報告し、ルートヴィヒスハーフェンの拠点において 2026 年末までにさらに年間 10 億ユーロのコスト削減を実現するための計画を発表しました。これは、欧州を中心とした非製造部門における既存のコスト削減計画と、ルートヴィヒスハーフェンにおける生産構造の最適化に次ぐ施策となります。

2023 年の BASF グループの利益の推移

2023 年度の特別項目控除前営業利益は 38 億ユーロでした。前年度に比べ 31 億ユーロ減少した主な要因は、ケミカル事業セグメントおよびマテリアル事業セグメントの利益貢献が大幅に減少したことです。ケミカル事業セグメントの特別項目控除前営業利益が減少したのは主に、利幅の縮小と販売量の減少、および持分法適用会社からの寄与の縮小によるものです。マテリアル事業セグメントでは、主にポリアミドとアンモニアの利幅が縮小した結果、減益となりました。ニュートリション & ケア事業セグメントおよびインダストリアル・ソリューション事業セグメントの特別項目控除前営業利益は、主に販売量の減少と利幅の縮小により、前年度の金額を大幅に下回りました。一方、アグロソリューション事業セグメントでは、主に価格の上昇と一時金の受領により、特別項目控除前営業利益が大幅に増加しました。サーフェステクノロジー事業セグメントの若干の増益は、価格上昇と販売量増加によりコーティング事業本部の特別項目控除前営業利益が大幅に増加したことによるもので、触媒事業本部の大幅減益を補って余りあるものでした。「その他」に分類される事業の特別項目控除前営業利益は、主にその他事業からの利益の増加と研究活動費の減少により大幅に改善しました。

2023 年の EBIT(営業利益)は前年の数字を大きく下回り、22 億ユーロとなりました。これは主に特別項目がマイナス 16 億ユーロとなったことによるもので、とりわけ、減損損失が約 11 億ユーロに上ったことが特別費用の主因です。これに含まれるのは、サーフェステクノロジー事業セグメントおよびアグロソリューション事業セグメントにおける土地、工場、設備の減損、マテリアル事業セグメントにおける有形・無形資産の減損です。

2023 年の特別項目控除前 EBITDA は、2022 年の数字を 31 億ユーロ下回る 77 億ユーロでした。EBITDA は 36 億ユーロ減の 72 億ユーロでした。純利益は 2022 年のマイナス 6 億 27 百万ユーロに対し、8 億 52 百万ユーロ増の 2 億 25 百万ユーロとなりました。

BASF グループのキャッシュフローと 2023 年 12 月 31 日時点の主要財務指標

営業活動によるキャッシュフローは、前年度の 77 億ユーロに対し、2023 年度は 81 億ユーロとなりました。この改善は主に正味運転資本からの現金流入によるものです。2023 年の在庫削減だけで 19 億ユーロの現金が捻出されました。営業活動によるキャッシュフローから、土地、工場、設備および無形資産に対する支払いを差し引いたフリー・キャッシュフローは、前年度の 33 億ユーロに続き、2023 年度は 27 億ユーロとなりました。

2023 年 12 月 31 日時点の純負債は 166 億ユーロで、前年末の 163 億ユーロとほぼ同水準でした。2023 年末の自己資本比率は 47.3%で、2022 年 12 月 31 日時点の 48.4%とほぼ同水準でした。「非常に堅固な自己資本比率と強力なキャッシュパフォーマンスは、厳しい時代にあっても引き続き BASF の財務力が強靱であることを証明しています」とエルバーマンは述べています。

1 株当たり 3.40 ユーロの配当を提案

年次株主総会では、前年と同額の 1 株当たり 3.40 ユーロの配当が提案される予定で、BASF はこれにより、株主の皆様へ総額 30 億ユーロを支払います。この配当案により、BASF の株式は 2023 年末の株価に基づくと 7.0%という高い配当利回りを提供します。BASF は、DAX40 の中で配当利回りが最も高い 15 社を含む DivDAX 株価指数の構成銘柄です。

ルートヴィヒスハーフェン拠点の利益は減少

2023 年、需要が低迷する極めて厳しい市場環境の中、特別項目控除前営業利益は全地域で 2 桁の減少率を記録しました。「ただし、金額ベースでは、ドイツを除くすべての主要国で、私たちのチームはプラスの利益貢献を果たしました」とブルーダーミュラーは述べています。ルートヴィヒスハーフェンの最大生産拠点が大幅な赤字となったため、ドイツの業績においては苦戦を強いられました。その主な要因は 2 つあります。まず、一時的な低需要環境が、川上・川下いずれの分野の事業においても販売量の推移に影響を及ぼしました。また、構造的なエネルギー価格の高騰による生産コストの上昇も、川上分野の事業の大きな負担となっています。

「その一方で、この状況はグローバルレベルでの厳しい状況下における、BASF グループの高い競争力と健全性を示しています。しかし、ルートヴィヒスハーフェン拠点の利益がマイナスであることは、競争力の強化に向けて、さらに断固とした行動を迅速にとる必要があることを示しています」とブルーダーミュラーは述べています。

コスト削減計画は 2022 年に開始

2022 年 10 月、BASF は化学会社としていち早く大幅なコスト削減計画に着手しました。また 2023 年 2 月には、欧州の非製造分野におけるコスト削減とルートヴィヒスハーフェン拠点における生産構造の最適化を目的とした、一連の具体策を開始しました。BASF の 2023 年第 3 四半期の報告にあるように、すでに発表されたあらゆる対策によるコスト削減の年間総額は、2026 年末には 11 億ユーロに達する見込みです。年間約 6 億ユーロのコスト削減の計画値は、2023 年末までにすでに達成しています。2022 年 10 月と 2023 年 2 月に発表された対策により、2026 年末までにさらに年間 5 億ユーロのコスト削減が実現する予定です。

ルートヴィヒスハーフェン拠点では追加措置が必要

新たなコスト削減プログラムにより、ルートヴィヒスハーフェン拠点では 2026 年末までに、さらに年間 10 億ユーロのコスト削減が計画されています。このプログラムでは、製造部門と非製造部門の両方でコスト削減を実現します。また、企業構造の効率化を推進し、生産能力を市場のニーズに適合させることで、固定費を削減します。さらに、プロセスの設計を見直すことで、変動費を大幅に削減することを目指します。ブルーダーミュラーは、「大変残念ですが、この施策においてはさらなる人員削減も行われます」と述べています。詳細は現在調整中です。従業員の代表者は今後、このプロセスに密接に関与していくこととなります。

必要なコスト削減に加え、ルートヴィヒスハーフェンにおける競争力のある資産の稼働率を再び大幅に向上させるため、BASF はあらゆる手段を講じていきます。堅実な利益を上げるには、通常レベルの工場稼働による追加的な利益貢献が必要です。ルートヴィヒスハーフェン拠点では、現在、とりわけケミカル事業セグメントとマテリアル事業セグメントの川上の工場が、通常レベルを大幅に下回る稼働率となっています。

本日発表されたこの短期施策と並行して、取締役会はルートヴィヒスハーフェン拠点の長期的な位置づけを更新する予定です。ルートヴィヒスハーフェンのメイン拠点の目標

像は、2024 年後半に発表します。そこには、欧州とドイツにおける規制の枠組みや変化した市場の現実の両方が反映されます。

ブルーダーミュラーは次のように述べています。「取締役会チームはルートヴィッヒスハーフェン拠点に引き続き強くコミットしていきます。私たちは、ルートヴィッヒスハーフェンを、高い収益性とサステナビリティを備えた、CO2 排出量の少ない先進的な化学品生産拠点に発展させたいと考えています。ルートヴィッヒスハーフェンを欧州市場への供給に集中させ、お客様から選ばれるパートナーであり続けたいと思います。そのためには、この施策を一貫してできるだけ早く実施することが不可欠です。同時に、より力強く成長し、魅力的な投資環境が存在する世界各地域で、私たちは計画的に事業を推進しています」。

BASF グループの 2024 年の見通し

BASF は、2023 年から続く世界経済の勢いの弱まりが 2024 年も継続すると予想しています。世界経済の成長は、今年後半にはいくらか加速すると見込まれており、BASF では 2024 年の世界経済の成長率を 2.3%と予想しています(2023 年の成長率は 2.6%)。欧州では、比較的高いエネルギー価格と産業界における価値創造に不利な枠組み条件が、引き続き経済発展を鈍らせています。

BASF はまた、世界の工業生産が 2.2%伸びると想定しています(2023 年の成長率は 1.4%)。世界の化学生産品の成長率は、2024 年には 2.7%と急成長を予想しています(2023 年の成長率は 1.7%)。これは主に、中国の化学産業の成長が見込まれるためです。BASF の計画では、年平均ブレント原油価格が 1 バレル=80 ドル、為替レートは 1 ユーロ=1.10ドルと想定しています。

BASF グループの特別項目控除前 EBITDA は 2024 年、80 億~86 億ユーロに達する見込みです(2023 年は 77 億ユーロ)。BASF グループのフリー・キャッシュフローは、1 億~6 億ユーロになると予測しています(2023 年は 27 億ユーロ)。これは、営業活動によるキャッシュフローの予想額 66 億~71 億ユーロから、土地、工場、設備および無形資産に対する支払い予想額の 65 億ユーロを差し引いたものです。投資関連の現金支出が多いのは、主に中国のフェアブント新拠点への投資によるもので、これは 2024 年にピークに達し、その後は減少していきます。

CO2 排出量は、2024 年には 1,670 万トン～1,770 万トンになる見込みです(2023 年は 1,690 万トン)。需要増に基づく生産量の増加により、前年度よりも CO2 排出量が増加することが予想されます。BASF は、エネルギー効率の向上やプロセスの最適化、再生可能エネルギーからの電力への移行の継続など、排出量削減にターゲットを絞った対策によって CO2 排出量の増加に対応していきます。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、経済的な成功とともに環境保護と社会的責任を追究しています。また、全世界で約 112,000 人の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献しています。ポートフォリオは、6 つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2023 年の BASF の売上高は 689 億ユーロでした。BASF 株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASF の詳しい情報は、www.basf.com をご覧ください。

■将来の予測に関する記述について

本リリースには BASF 経営陣による現時点での推測および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらはここに記す将来の進展や業績を保証するものではなく、多くの要因に依存し、様々なリスクと不確実性を含んでいるほか、正確とは限らない仮定に基づいています。本リリースに記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASF は更新の義務を負いません。